



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎ 36-7117

## 今月のテーマ これからの「公共施設のあり方」を考える

今月は、市民共有の財産である公共施設の将来について、皆さんとともに考えたいと思います。

学校や病院、道路や橋りょう、上下水道といった市民生活や社会経済活動を支えるさまざまな公共建築物やインフラは、高度成長期以降に全国的に集中して整備されました。島田市の場合、昭和 50 年代に建築された施設が多く、特に昭和 58 年には、プラザおおりのほか、小学校 6 校、中学校 1 校の校舎や屋内運動場など、多くの建物が一挙に整備されました。当然のことですが、一斉に整備された施設は一斉に更新時期を迎えます。

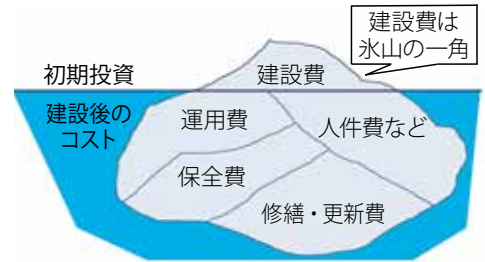
こうした中、今年 3 月には、公共施設に関する課題に対処するための基本方針「島田市公共施設等総合管理計画」を取りまとめ、将来の人口や財政の予測をもとに「将来どれだけ公共施設をもてるか」の目安などを示しました。平成 27 年 3 月末の時点で、島田市は 276 施設 (663 棟) の公共建築物や総延長 1,137km の道路、1,155 本の橋りょうなどを保有していて、これらを維持・修繕・更新するには、今後 40 年間でおよそ 2,515 億円の費用がかかると試算されています。年平均にすると 63 億円となり、現在の年間費用 (36 億円) と比べ 1.75 倍にもなる金額です。



橋の打音調査

次世代に過度な負担を強いることなく、ニーズに見合った行政サービスを将来にわたり安定的に供給し続けるために、今後は公共施設等の ①品質の適正化 ②保有量の適正化 ③管理費の適正化を推進していかなければなりません。

特に、公共施設は初期投資よりもその後の維持管理に多くの費用がかかるということに着目し、今あるものを今後どのように活用するのかを考えることが重要です。すなわち「新しく造ること」から「賢く使うこと」へのシフトです。



具体的には、適切な維持管理と修繕を重ねて公共施設を長持ち (長寿命化) させると同時に、例えば毎年約 3～4 億円かかっている光熱水費の見直しなど、日常的な維持管理費の削減に全庁一丸となって取り組みます。市民の皆さんにも、これからのまちづくりに貢献する公共施設のあり方を、楽しく前向きに考えていただければ幸いです。

昨年 11 月に実施した市民アンケート調査では、「過去 1 年間に一度も使っていない」という回答が 8 割を超える施設が半数にのぼり、ユーザーがやや固定化されている傾向がうかがえました。多くの皆さんに、公共施設を活用いただくことを切に願っています。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

NPO 法人クロスメディアしまだでは、8 月 8 日～14 日に「こどもわくワーク」を開催。子どもたちが実際の仕事を体験し、市内商店街で利用できる疑似通貨「わくマネー」を給料として受け取り、買い物をするという一連の取り組みです。今回は、小学 1 年生から 4 年生まで、延べ 150 人が参加。「お店でお仕事ができた」という達成感、自主性や社会性を向上させます。そして、地元「かつてい大人がたくさんいる」という地域愛は、地域と子どもを

つないでいきます。今後も、「島田発地域丸ごと学校計画」として続けていきます。ぜひご参加ください。(兒玉絵美さん：NPO 法人 クロスメディアしまだ)



ラジオパーソナリティの仕事体験